

お互いさま

otagaisama

恵みあい、助けあう



特集

オールジャパンケア コンテスト(AJCC)

介護従事者の目標をつくり
ケア技術を高め、地域とつながる

クローズアップ

訪問リハビリテーション さかい幸朋苑

地域に根差し、
自宅でのリハビリをサポート

キラキラ働き人

錦海リハビリテーション病院

原 大樹さん 野坂進之介さん

2022 July
季刊誌(年4回発行)

NO. 05



社会福祉法人 こうほうえん

オールジャパンケアコンテスト(AJCC)



動画応募方式では、大会が設定したマニュアルに沿って動画を撮影し、指定されたURLにアップロードして応募が完了。68(認知症28、看取り10、食事30)本の動画審査が行われ、技能実習生や高校生からの応募もありました。結果発表と表彰式は、オンラインで全国にライブ配信されました。



過去10大会では、各分野にブースを設け、審査員の目の前で実技を披露してその場で評価が伝えられていました。全国から選手が集まり、大会の前後で交流会も開かれるなど、介護従事者同士の交流や意見交換も活発になされました。来年以降は、動画部門も残しつつリアルでの開催を目指しています。

介護従事者の 目標をつくり ケア技術を高め 地域とつながる

介護技術の全国コンテスト

「オールジャパンケアコンテスト」(AJCC)とは、全国から介護従事者を選挙として募り、「認知症」「食事」「入浴」「排泄」「看取り」「口腔ケア」の各分野で課題に応じた介護技術を披露し、その実技に対して専門のアドバイザーが助言、審査をする介護の全国大会です。2010年に第1回大会が開催され、翌年の第2回大会以降をこうほうえんが主体となつて年1回開催しています。第2〜9回大会は鳥取県内で開催し、2019年の第10回記念大会は東京の国立オリンピック記念青少年センターで開催。回を重ねることに少しずつ規模を拡大し、第2回大会では選手の募集定員70人だったのが、第10回大会では「国際交流分野」を合わせ定員は130人になり、一般の観客を合わせて2000人以上の方が集いました。



西東京エアリア総合施設長
さくらのぶや
櫻井伸哉

「ヘルスケアタウンむかいほら」勤務。これまでに法人本部人財部長やいなば幸朋苑総合施設長を歴任。オールジャパンケアコンテストは第2回大会から運営を担当する。

しかしコロナ禍により、翌年、第11回大会の中止が余儀なくされましたが、2022年3月、実に2年半ぶりに大会を実現できました。今大会は新型コロナウイルスの流行状況を鑑みて、録画した動画のみの審査で、「認知症」「看取り」「食事」の3分野に限定。68人の応募により審査が行われました。

コロナ禍を乗り越えての 動画開催

過去の大会では、選手たちは会場に設けられた各分野のブース内で、アドバイザーの目の前で実技を披露し、評価のフィードバックを受けてきました。しかし今大会は、動画での開催という私たちにとつても初めての試み。大会の実現までには多くの壁がありました。

中でも頭を悩ませたのが評価基準の問題です。これまでは運営側が用意した高齢者役を相手に、実技を披露してい

たところ。今後の大会でも録画部門として残していきたい考えです。

と残していきたい考えです。AJCCを目標に技術を高める。これほどまでに開催にこだわるのも、AJCCの大きな目的に向けて、過去に培ってきたものを絶やさないためです。AJCCの最大の目的は、介護従事者である選手たちが、大会を通じて仲間のネットワークを広げ、ともに介護とは何かを考え、学び合い、絆を深め、そして介護を支える土壌を育むこと。介護は科学的エビデンスの蓄積が足りていない分野であり、現場では自分の介護が本当に正しいのか不安を感じる人もいます。今回は動画開催でしたが、過去の大会ではアドバイザーが選手にその場で直接講評を伝えていたので、「自分のケアに自信を持てたし、

AJCCを目標に技術を高める

修正点を改善したい」「教えてもらったことを自分の職場に広めたい」とフィードバックを喜ぶ声が多く聞かれました。また、二度参加すると連続で参加する法人も多く、AJCCを目標として1年間技術の向上に励んで参加する団体もいます。近年はAJCC以外のケアコンテストも増え、業界の活性化と介護の質の向上に貢献していることを実感しています。

より多くの人に 知ってもらうために

大会にはもうひとつ大きな目的があり、それは地域とのつながりです。過去の大会を見学された地域の方たちからは、「介護は誰でもできると思ってたのに、こんなに高度な技術が必要なんて」と驚

きの声が聞かれました。介護の現場では、コロナ禍で苦勞しながらも日々のケアに真摯に向き合っています。AJCCを通じて、地域の方に介護の仕事は高度なプロの仕事だと知っていただくとともに、ご家族のケアにも役立てていただければ幸いです。

今後の大会も東京で開催する予定ですが、これはより多くの人に知ってもらい、すべての介護従事者が目標とするような大会を目指しているからです。東京開催以降、業界大手3社の協力も得られ、新しい知恵やノウハウを得るとともに、より広く認知されるコンテストとなる事も夢ではないはず。今後も、全国の仲間と高め合うことができる大会運営を目指していきます。

☆☆☆
＼キラキラ／
働き人
☆☆☆



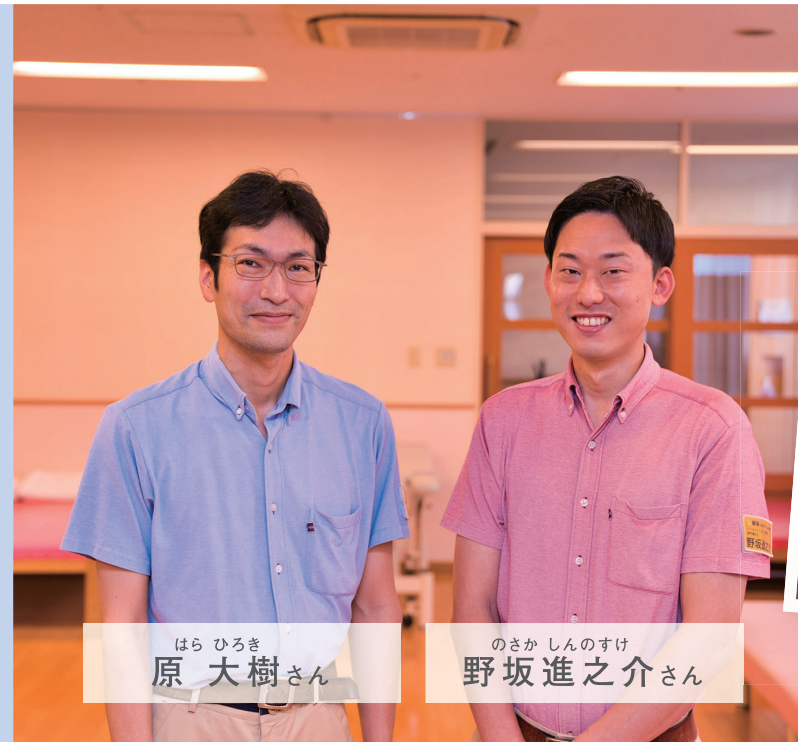
地域に向けたフレイル予防の講演会を開催！

共通の趣味のロードバイクと一緒に大会に出場！

患者さんの退院後を見据えたリハビリを行っています。

＼お2人が勤務する／
錦海リハビリテーション病院とは？

2006年に開院し、全室個室、365日・3時間のリハビリテーションを提供する回復期リハビリテーションの専門病院です。2回目となる病院機能評価では、2021年12月3日付けで更新認定を受けました。「高度・専門機能リハビリテーション(回復期)」では中国地方初の認定となります。理学療法部門には19名の理学療法士が在籍し、日々患者様と向き合いながら、大学院進学や、認定理学療法士の取得など、それぞれの専門性を高めています。



はら ひろき
原 大樹さん

のさか しんのすけ
野坂進之介さん



プロフィール



原 大樹さん

2007年入職。前職では松江市内の総合病院で急性期リハビリを担当。現在、理学療法部門の主任理学療法士を務める。趣味はロードバイクで、野坂さんとは趣味仲間でもある。

患者さんを主役に据えたリハビリが大切です

患者さんを「本当に知る」
私たちPTは、基本的な動作の維持・回復を目指したりリハビリを行います。患者さんのことを本当に知っていないければ、退院後の生活全般を見据えたサポートは難しくなってきます。「本当に知る」とは、患者さんの希望や、生活環境、家族関係といった二歩踏み込んだことまで知っておくということ。入院中、患者さんは「自宅や社会に戻るのか」と不安を抱え、日々、気持ちが揺れ動いています。PTは自分の理想を押し付けるのではなく、患者さんの想いを汲んで、実現できるようなリハビリを提供することが重要です。

その中で、部署内での症例検討会は大切な役割を担っています。当院では、臨床の場面に担当以外のPTが立ち会って動画撮影を行い、複数名で検討することで、自分の考えにかたよりのないか、視野を広げていきます。

「出会えて良かった」と思われる存在を目指しています

どんな時も患者さんと向き合う
PT(理学療法士)は、患者さんの退院後の生活に向けて、起き上がりや立ち上がり、歩行、段差の上り下りといった移動や生活する上で基本となる動作のリハビリを担う専門職です。リハビリによって患者さんのできるが増えていくのを一緒に喜ぶことが、この仕事の楽しさ。もちろん、いつも順調に進むわけではありませんが、良い時もうまくいかない時も患者さんと向き合うことを大切にしています。

また、退院後の生活にも目を向けて、自宅でも取り組めるエクササイズやリハビリ以外の役立つ情報なども意識しています。現在、大学院の博士課程で、歩行機能と認知機能の関連性の研究に取り組んでいるので、こうした知識や情報を患者さんに提供することを心がけています。

研究活動にも力を入れる
当院では、臨床だけでなく、教育や地域

プロフィール



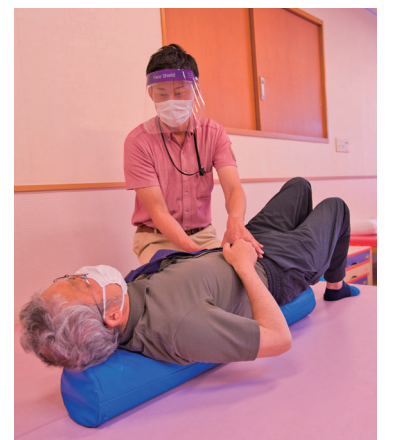
野坂進之介さん

2013年、実習先の錦海リハビリテーション病院に入職。現在、広島大学大学院博士課程在籍。「第26回こうほうえん研究発表会」(2022年3月開催)でリハビリ部門・優秀賞を受賞。



高い専門性のあるリハビリを
当院では、専門性を持って患者さんとかかわることを重視しており、多くの職員が認定資格を取得しています。理学療法部門では、全国的には1割にも満たない認定理学療法士の資格を93%の職員が取得。野坂くんのように大学院に進む職員も多く、私自身も5年前に修士課程を修了しました。

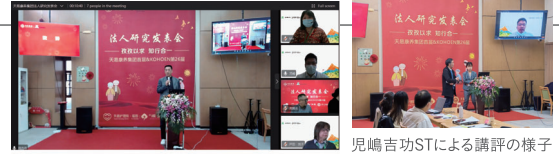
こうした当院の取り組みは、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価でも高く評価されました。私も理学療法部門の主任として準備に携わりましたが、高く評価してもらえたことに、やりがいや達成感を感じます。臨床以外にも、主任の仕事である予定調整や他部署との連携、院外との調整、講演会の準備などもこなしますが、やり遂げた時の達成感は大きなものです。今後は、部門全体としてより良いリハビリを提供していくとともに、地域住民の皆様にも、健康や生活の質にかかわる情報を提供できればと考えています。



活動、研究にも力を入れていきます。私のように大学院に進む人も多く、こうした職員の成長を積極的に後押ししてくれる環境が、入職の決め手になりました。部署内の発表会も頻繁に行われていますし、法人全体での研究発表会もあり、今年の人研究発表会では米子市委託のフレイル予防事業に関する発表を担当。これはPTやOT(作業療法士)だけでなく医師や看護師らを含む7職種がチームを組んで行ったもので、全国的にも稀な取り組みとして高く評価していただきました。

こうした他部門との連携は普段から行われていて、医師たちはリハビリ室に頻繁に顔を出して、患者さんのリハビリの様子を見ながらPTと情報交換をしています。今後もより良い理学療法を目指し、大学院で得た知識や、新しい情報を患者さんに提供して「出会えて良かった」と思っていただけのように研鑽を重ねていきたいです。

「第1回天易養老 法人研究発表会」に参加しました



2022天易法人研究発表会WEB参加の様子

児嶋吉功STによる講評の様子
(2022天易法人研究発表会)

令和4年3月10日、中国の「天易養老発展有限公司」(※1)による「第1回天易養老 法人研究発表会」が行われ、その審査員として「こうほうえん」から戸田悦子介護課長(よなご幸朋苑)、児嶋吉功ST(さかい幸朋苑)、高須美香(法人本部)が出席しました。法人研究発表会の紹介や研修会、2月の予行演習を経て、今回30題発表されました。

医師・看護師だけではなく、人事部、企画部、購買部、営繕部、IT部門、厨房など幅広い部門からの発表があり、質問の他にも、「こんなに防火管理について考えてくれているとは思わなかった」「高齢者だけでなく、職員の食事にまでこんなに気を使ってくれてありがとう」「詳細な観察が素晴らしい」などお互いを褒め称える姿がとても印象的でした。その中で、最優秀賞を取った郭麗麗さん(法人本部企画発展部)には、令和4年3月、こうほうえんの「法人研究発表会」(会場:米子コンベンションセンター)にWEBにて発表していただきました。

今回の 法人研究発表会の企画・実施により、現場からは職員のモチベーションはがUPし、社内での団結感が増したと聞いています。

「こうほうえん」のノウハウが中国で実践され、喜ばれることで、改めて「こうほうえん」が研究発表会を始めた意味なども振り返った次第です。

法人本部 海外事業室
室長 高須美香

(※1)「天易養老発展有限公司」

中国蘇州市の介護事業者であり、中国の急速な高齢化を見据え、蘇州市との協働プロジェクトとして日本の介護技術の導入を検討する中パートナーとして「こうほうえん」を選定。「社会福祉法人こうほうえん」と「天易養老発展有限公司」は令和2年1月、介護・リハビリテーション技術のノウハウを提供する契約を締結しており、戦略的支援計画に基づき今年も5月から戸田悦子介護課長、児嶋吉功STを継続的に派遣している。

寄附者 一覧

※令和4年3月～5月にご寄付をいただいた皆さま

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。

皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

石田自動車商会 / 200,000円 ほか16名 寄付金合計額: 500,000円

<さかいエリア>

- 水彩画(題名「遊ぼう」)…佐藤征様

<北東京エリア>

- 古タオル…坂本ふさ子様
- マスク100枚…今井ノブエ様
- 足ふきマット…長谷川様(近隣)
- 絵本…坪井様(卒園児)

<西東京エリア>

- ご入居者 / 91,000円
- ご入居者2名 / 各10,000円(計20,000円)

ボランティア 一覧

※令和4年3月～5月にボランティアにご参加いただいた皆さま

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます。

<さかいエリア>

- 新さかいエリア敷地内の整備…境港総合技術高校

<なんぶエリア>

- カフェの準備、お茶出し、片付け
…仲田みどり様、西山勝、勝部尚子様、石田喜和子様、斉木正枝様、
斉木ルミコ様、尾原稔枝様、足羽恵美子様、梅木恭美様、乗田千恵様

<西東京エリア>

- 傾聴、軽作業…3名
- 植栽活動…19名

<南東京エリア>

- フラワーアレンジメント…アトリエ金木屋
- ピアノ演奏…臼井様
- お菓子差し入れ…江藤様(ボランティア)
- お花差し入れ…国井様(ボランティア)
- 保育補助…岩倉高校
- ハンドマッサージ、メイク…プラチナ美容塾
- 合唱…ハートフル



法人本部事務局

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳1400

TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113

フリーダイヤル:0120-418-658

E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-3-7KSビル203号室

TEL:03-3365-1331 FAX:03-3365-1339



2014年度日本経営品質賞大規模部門
(鳥取地区/介護)受賞



こうほうえんはISO9001-2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービズ日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索

<https://www.kohoen.jp>